

東洋医学センターの開設に当たって



学長 吉田宗平

近代医学は、疾病の原因を分子生物学的に究明し、その除去を行う分析主義的な治療法により急速な進歩を遂げ、また、その予防法についても多くの成果を上げてきました。しかし、西洋医学の医聖ヒポクラテス（紀元前 460 年頃）は、「人がどんな病気にかかっているかを知るよりも、病気にかかっているのがどんな人なのかを知ることの方が大切だ」と語っています。その人としての医学・医療の根本原理を忘れたかのような医療の現実は無感覚であってはならないと思います。物質的・生物な「疾病観」が優先され、患者のこころの不安感や健康観が無視されてはなりません。

東洋の伝統医学の根底には、“心身一如、の健康観があり、ひいては「天人地」を一体化した「気」の流れを洞察する生命哲学、宇宙観があります。「未病治」のもと、その乱れを発病前に察知して調和を取り戻し、「生命の質」の向上へむけて回帰させることに、その哲理があります。例えば、「軽身」という言葉、これは、中国武術において軽功（けいこう、繁体字: 輕功; 簡体字: 轻功; 拼音: qīngōng; ウェード式: chin k'ung; イェール式広東語: hìng gùng チンゴン）といわれ、体を軽くする功夫（鍛錬法）またはその技、「軽身功」とも言われています。古来、日本の武士道においても「身軽」は日常鍛錬の基本で、それを忘れた「身重」では一瞬のうちに命を落としてしまいます。現代の私達も、日常生活における身体活動が無意識に軽々とこなせることが大切です。東洋医学には、湯液や鍼灸だけではなく、その根幹には身体動作と健康を維持・増進させる伝統的な手技・手段が伝承されています。“歳、をとっても、階段・坂道でバランスを崩して転倒しないよう、とっさの動作が自然に、無意識に行える身体機能を維持しなければなりません。この「軽身」は「耐老」（アンチエイジング）とも通じるものです。自分の思い通りの身体動作や、思考がスムーズに行えるよう維持したいものです。これは、常日頃からの食養と身体訓練によって修得されるものです。さらに、もう一つ「駐顔」（若々しい顔を維持する）という言葉があります。その伝統技術の一つに「鍼灸美容」があります。刺激された皮膚は、鍼灸刺激の修復機転作用により、「健康美」を取り戻します。東洋医学・医療の本質は、健康のバランスと、美容が表裏一体となった「健康美」にあます。生老病死を克服する長寿へと繋がるものです。

「軽身（けいしん）」 「耐老（たいろう）」 「駐顔（ちゅうがん）」

複雑化する現代医療の中で、もう一度、伝統的医学の中で培われた“心身一如、の技の由来を訪ね、新たに再生させて社会に貢献すること、いわゆる「リバーズ・イノベーション」が急務ではないでしょうか。本学に東洋医学研究センターを立ち上げた目的は、そこにあります。諸賢の知恵を結集して、本学がその一つの拠点として進めて行きたい。